

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F108110101414	改組内容	研究科等の設置・増員 + 学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	茨城大学	設置区分	国立	事業計画名	茨城大学における地域産業に貢献する製造系高度ITエンジニアの育成強化
学校種	大学	都道府県	茨城県		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	【情報系組織の入学定員】<博士>8人<修士>30人<学士>80人 工学部情報工学科：80名 大学院理工学研究科博士前期課程情報工学専攻：30名 大学院理工学研究科博士後期課程社会インフラシステム科学専攻：8名	【情報系組織の入学定員】<博士>8人<修士>30人<学士>80人 工学部情報工学科：80名 大学院理工学研究科博士前期課程情報工学専攻：30名 大学院理工学研究科博士後期課程社会インフラシステム科学専攻：8名	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 令和6年度の新カリキュラムへの対応に向け、関係機関等への協力依頼、教員の異動手続き、学生の移動手続きなどの各種準備を行った。なお、令和6年度後期に予定している授業等への対応は、引き続き6年度当初においても行うこととしている。
令和5年度	① 9月：情報工学専攻のための新教育カリキュラムの策定、教育内容の設計、授業担当者の決定。 ② 9月：実践講義のための近隣企業への講師派遣などの協力依頼、自治体への協力依頼。 ③ 9月：増員教員4名、技術補助員1名、コーディネータ3名の募集と選考手続きの開始。 ④ 9月：機械システム工学、電気電子システム工学専攻から情報工学専攻への教員の異動手続きの開始。 ⑤ 11月：既に機械システム工学専攻等に合格した学生の、情報工学専攻への移動選考の実施。 ⑥ 2月：演習・実験用の設備教材の購入および設置。 ⑦ 3月：教室、演習室(DigitalTwinファクトリー)、実験室、学生研究室の環境整備と施設改修。	令和6年度概算要求 茨城大学大学院組織整備計画を文部科学省に提出した。 ① 9月：情報工学専攻のための新教育カリキュラムの策定、教育内容の設計、授業担当者の決定。 ② 9月：実践講義のための近隣企業への講師派遣などの協力依頼、自治体への協力依頼。 ③ 9月：増員教員4名、技術補助員1名、コーディネータ3名の募集と選考手続きの開始。 ④ 9月：機械システム工学、電気電子システム工学専攻から情報工学専攻への教員の異動手続きの開始。 ⑤ 11月：既に機械システム工学専攻等に合格した学生の、情報工学専攻への移動選考の実施。 ⑥ 2月：演習・実験用の設備教材の購入および設置。 ⑦ 3月：教室、演習室(DigitalTwinファクトリー)、実験室、学生研究室の環境整備と施設改修。	○年度自己評価	リストから選択してください。
令和6年度	【情報系組織の入学定員】<博士>8人<修士>70人<学士>80人 大学院理工学研究科博士前期課程情報工学専攻：40名増員予定（入学定員70名）		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和6年度	① 4月：情報工学専攻の入学定員増(30→70名)の実施。 ② 4月：情報工学専攻の新教育カリキュラム科目(1年目)の開講。製造DX実践講座の準備。 ③ 4月：DigitalTwinファクトリーの稼働開始。キャリアパス支援室の業務開始。 ④ 8月：集中講義形式での製造DX実践講座の講義開始。連携インターンシップの開始。 ⑤ 9月、3月：情報工学専攻の教育点検の実施。 ⑥ 9月、3月：企業有識者を含む産学連携カリキュラム改善会議での状況報告と提案や意見の収集。 ⑦ 10月：設備導入の継続。		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和7年度	【情報系組織の入学定員】<博士>8人<修士>70人<学士>90人 工学部情報工学科：10名増員予定（入学定員90名）		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和7年度	① 4月：情報工学科の入学定員増(80→90名)の実施。 ② 4月：DigitalTwinファクトリーの稼働及びキャリアパス支援室業務の継続。 ③ 4月：情報工学専攻の新教育カリキュラム科目(2年目)の開講。MBD実践講座、IoT演習の準備。 ④ 8月：集中講義形式での製造DX実践講座、IoT演習の講義開始。 ⑤ 8月：集中講義形式での製造DX実践講座継続実施。 ⑥ 9月、3月：情報工学専攻の教育点検の実施。 ⑦ 9月、3月：企業有識者を含む産学連携カリキュラム改善会議での状況報告と提案や意見の収集。		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和8年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人<修士>70人<学士>90人 大学院理工学研究科博士後課程社会インフラシステム科学専攻：2名増員予定（入学定員10名）		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和8年度	① 4月：博士後課程社会インフラシステム科学専攻の入学定員増(8→10名)の実施。 ② 4月：情報工学専攻の新教育カリキュラム科目の継続。DigitalTwinファクトリーの稼働及びキャリアパス支援室業務の継続。 ③ 8月、9月：DigitalTwin、CPS、MBD、IoTのリスクリング用オンデマンドコンテンツの製作開始。 ④ 8月：集中講義形式での製造DX実践講座、MBD実践講座、IoT演習の継続実施。 ⑤ 9月、3月：情報工学専攻の教育点検の実施。 ⑥ 9月、3月：企業有識者を含む産学連携カリキュラム改善会議での状況報告と提案や意見の収集。 ⑦ 10月：情報工学専攻の新カリキュラム等についての外部アンケートの実施。		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人<修士>70人<学士>90人		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	① 4月：外部アンケートの結果に基づく情報工学専攻のカリキュラムの見直し開始。 ② 4月：情報工学専攻の新教育カリキュラム科目の継続。DigitalTwinファクトリーの稼働及びキャリアパス支援室業務の継続。 ③ 4月：R10年3月に最初の卒業生を出す学部等連携課程に対する情報工学専攻進学者の紹介。 ④ 8月：DigitalTwin、CPS、MBD、IoTのリスクリング用オンデマンドコンテンツの提供開始。 ⑤ 8月：集中講義形式での製造DX実践講座、MBD実践講座、IoT演習の継続実施。 ⑥ 9月、3月：情報工学専攻の教育点検の実施。 ⑦ 9月、3月：企業有識者を含む産学連携カリキュラム改善会議での状況報告と提案や意見の収集。		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人<修士>70人<学士>90人		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度	① 4月：見直し後のカリキュラムに基づき授業の開始。 ② 4月：情報工学専攻の新教育カリキュラム科目の継続。DigitalTwinファクトリーの稼働及びキャリアパス支援室業務の継続。 ③ 8月：集中講義形式での製造DX実践講座、MBD実践講座、IoT演習の継続実施。 ④ 9月、3月：情報工学専攻の教育点検の実施。 ⑤ 9月、3月：企業有識者を含む産学連携カリキュラム改善会議での状況報告と提案や意見の収集。 ⑥ 10月：情報融合プログラム(仮称)の修了者の採用企業等への外部アンケートの実施。 ⑦ 10月：教室、演習室、実験室、学生研究室の施設や設備の見直しと改修。		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和11年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人<修士>70人<学士>90人		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和11年度	① 4月：外部アンケートの結果に基づく情報工学専攻のカリキュラムの見直し開始。 ② 4月：情報工学専攻の新教育カリキュラム科目の継続。DigitalTwinファクトリーの稼働及びキャリアパス支援室業務の継続。 ③ 8月：集中講義形式での製造DX実践講座、MBD実践講座、IoT演習の継続実施。 ④ 9月、3月：情報工学専攻の教育点検の実施。 ⑤ 9月、3月：企業有識者を含む産学連携カリキュラム改善会議での状況報告と提案や意見の収集。		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和12年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人<修士>70人<学士>90人		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和12年度	① 4月：見直し後のカリキュラムに基づき授業の開始。 ② 4月：情報工学専攻の新教育カリキュラム科目の継続。DigitalTwinファクトリーの稼働及びキャリアパス支援室業務の継続。 ③ 8月：集中講義形式での製造DX実践講座、MBD実践講座、IoT演習の継続実施。 ④ 9月、3月：情報工学専攻の教育点検の実施。 ⑤ 9月、3月：企業有識者を含む産学連携カリキュラム改善会議での状況報告と提案や意見の収集。		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和13年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人<修士>70人<学士>90人		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和13年度	① 4月：情報工学専攻の新教育カリキュラム科目の継続。DigitalTwinファクトリーの稼働及びキャリアパス支援室業務の継続。 ② 8月：集中講義形式での製造DX実践講座、MBD実践講座、IoT演習の継続実施。 ③ 9月、3月：情報工学専攻の教育点検の実施。 ④ 9月、3月：企業有識者を含む産学連携カリキュラム改善会議での状況報告と提案や意見の収集。 ⑤ 10月：新しい情報専攻の振り返りの開始。成果と問題の洗い出し。		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和14年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人<修士>70人<学士>90人		○年度自己評価	リストから選択してください。
令和14年度	① 4月：情報工学専攻の新教育カリキュラム科目の継続。DigitalTwinファクトリーの稼働及びキャリアパス支援室業務の継続。 ② 8月：集中講義形式での製造DX実践講座、MBD実践講座、IoT演習の継続実施。 ③ 9月、3月：情報工学専攻の教育点検の実施。 ④ 9月、3月：企業有識者を含む産学連携カリキュラム改善会議での状況報告と提案や意見の収集。 ⑤ 10月：新しい情報工学専攻の10年間の総まとめにあたるシンポジウムの開催。		○年度自己評価	リストから選択してください。

フォローアップ対象年度	R5年度	大学名	茨城大学
-------------	------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

R5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（R元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table border="1"> <tr> <td>確認を受けている</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> <tr> <td>対象に該当しない</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック	
確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）					
	<table border="1"> <tr> <td>既設の情報系分野に係る研究科等を有する</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑨	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。					
	<table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。					
	<table border="1"> <tr> <td>認定を受けている、又は対象に該当しない</td> <td><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> <tr> <td>認定を受ける計画が進んでいる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>	認定を受けている、又は対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック	認定を受ける計画が進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	
認定を受けている、又は対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック					
認定を受ける計画が進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					

フォローアップ対象年度	R5年度	大学名	茨城大学
-------------	------	-----	------

⑬	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	■ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

R5年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- ① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
【情報工学専攻の学生向け】(株)日立製作所大みか事業所：技術者を講師として招き「製造DX支援システムLumadaの実践講座」の開催、大みかグリーンネットワークへの参加とGXに関する講演会、事業所見学会の実施。日立Astemo(株)：技術者を講師として招き「MATLAB/Simulinkを利用したMBD実践講座」の開催、連携協定のもとでの長期インターンシップ、共同研究の実施。日立地区産業支援センター：センターでの「IoT実践講座」への参加、地元企業インターンシップ仲介。JX金属(株)：連携協定のもとでの長期インターンシップ、共同研究、事業所見学会の実施。(株)ユニキャスト(本学卒業生のITベンチャー)：長期インターンシップの実施。 【地域の社会人や小中学生向け】：茨城県：自治体向けのPythonセミナーへの講師派遣。日立市：女性デジタル人材育成講座「プログラミングをはじめよう」への講師派遣。日立理科クラブ：プログラミング学習や暗号理論に関する実習を伴う特別授業の実施。日立市科学館：小学生向けスクラッチ(Scratch)教室の実施、オープンラボや科学の祭典での情報系の出展。	【情報工学専攻向け】(株)日立製作所大みか事業所：「製造DX支援システムLumadaの実践講座」及び「GXに関する講演会」は、R6年の実施に向けて調整を行った。大みか事業所とは地域のGX推進等をテーマに定期的に協議を行った(11/8,3/14の2回実施)。事業所見学会は9/27に実施(19名参加)した。日立Astemo(株)：「MATLAB/Simulinkを利用したMBD実践講座」は、当初計画どおりR7年開講へ向け準備を進めた。長期インターンシップ(15名参加)と共同研究(3件)を実施した。日立地区産業支援センター：「IoT実践講座」は当初計画どおりR7開講へ向け準備を進めた。同センターの仲介による地元企業インターンシップに23名が参加した。JX金属(株)：長期インターンシップ(8名参加)と事業所見学会(学生：9/26(19名参加)、教員：9/7(27名参加))を実施した。共同研究については12月にマッチングイベントを開催した。ユニキャスト：2名が長期インターンシップに参加した。【地域向け】：茨城県：自治体向けの12/20に実施したPythonセミナーに講師を派遣し約40名が受講した。日立市：11月から12月の全5回実施した「女性デジタル人材育成講座「プログラミングを学ぼう」」へ講師を派遣し10名が受講した。日立理科クラブ：プログラミング学習や暗号理論に関する実習を伴う特別授業(10/15,55名受講)、日立科学館：5/27,28に「オープンラボ」を開催し、10/29開催の「青少年のための科学の祭典：日立大会」にや科学の祭典での情報系のブースを出展した。	

- ② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学教育学部附属小学校・附属中学校：プログラミング教育の支援。県内中学校：地域で技術者として活躍することに関するキャリア・ワークショップの実施。県内中学校・高校：茨城活躍人材のロールモデルとしての「地域で活躍する製造DX技術者」との交流会の実施。中学校教員：教員研修での情報教育に関する勉強会や工学部見学会の実施。県内高校：情報オリンピックに向けたプログラミング学習の実施、プログラミングに関する模擬授業の実施。情報工学専攻の大学院生による「情報I」の授業のサポート(生徒への指導、助言、担当教員との意見交換)の実施。日立第一高校：発展学習支援のための「統計学講座」のオンライン実施、大学院生による発展学習支援、大学での研究活動を模擬体験する研究室インターンシップの実施。日立北高校：大学院生による発展学習支援、大学での研究活動を模擬体験する研究室インターンシップの実施。水戸第二高校：発展学習支援のための「統計学講座」のオンデマンド配信の実施。	本学教育学部附属中学校：8/31に移動ロボットを題材にプログラミング教室を実施した(68名参加)。県内中学校：日立市内の多賀中学校(11/21,39名参加)と本学教育学部附属中学校(12/20,65名参加)において、キャリア・ワークショップを実施した。また、「地域で活躍する製造DX技術者」との交流会も開催した。中学校教員：8/4に茨城大学工学部において、理科教員20名に対して研修会を実施した。また、工学部内の研究室見学会も実施した。県内高校：情報オリンピックに向けた高校生プログラミング教室を、本学の水戸駅南サテライトで8/25,8/28に実施し、15名の参加があった。情報工学専攻の大学院生による「情報I」の授業のサポート(生徒への指導、助言、担当教員との意見交換)を日立第二高校及び日立北高校で実施した。日立第一高校：発展学習支援のための「統計学講座」をオンラインで実施した。また、大学院生をチューターとして派遣し、探究学習支援を行うとともに大学での研究活動を模擬体験する研究室インターンシップを実施した。日立北高校：チューター派遣による探究学習支援と、研究室インターンシップを実施した。水戸第二高校：12/16にSTEAMコンテストと称して、バスタを用いて構造物を構築しその強度を競うイベントを高校と共同で開催した。	

- ③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子中学生：女性技術者としてのキャリアワークショップの開催(R5,6はJST女子中高生の理系進路選択支援プログラムで実施)。女子中学生、高校生：ロールモデルとしての地元で活躍する女性技術者との座談会の開催(R5,6はJST女子中高生の理系進路選択支援プログラムで実施)。女子高校生：学校推薦型選抜での女子枠の開設、近隣の女子の多い高校での製造DXについての模擬授業の実施、リクジョを対象としたSTEAMコンテストへの協力(課題提供、事前授業提供等)。社会人学生：リカレント・リスキリングのためのIT技術セミナー、Pythonプログラミングセミナー、GPUプログラミングセミナーの対面+オンデマンドでの開催、DigitalTwin、CPS、MBD、IoTについての学習講座のオンデマンド配信等を通じた大学院入学の勧誘。留学生：本学大学院理工学研究科の秋入学制度と、学部留学生を早期に大学院に迎え入れるGraduate Pathway Programを利用した、インドネシア・イスラム大学(U11)からの留学生の、情報工学専攻への取り込み。博士の学位を有していないUI1講師の、博士後期課程社会インフラシステム科学専攻への取り込み。	女子中学生：JST女子中高生の理系進路選択支援プログラムの一環として、女子中学生を対象に、「技術者としてのキャリア」をテーマにワークショップを開催した(上記②のキャリア・ワークショップと同じ取組)。主に女子中学生を対象に、ロールモデルとしての地元で活躍する女性技術者との座談会を工場見学会と組み合わせて計3回実施した(8/24,8/28,12/26)。女子高校生：理系に関心を持つ女子高校生を対象としたSTEAMコンテストへの協力(課題提供、事前授業提供、当日の作業支援と審査)を行った(上記②のSTEAMコンテストと同じ取組)。またR7年から学校推薦型選抜での女子枠を開始するため準備を進めている。留学生：博士の学位を有していないインドネシア・イスラム大学(U11)講師2名が、R7から博士後期課程社会インフラシステム科学専攻へ入学することになった。またR7年から、長岡科技大のTwiningプログラムに参加し、ハノイ工科大の学生を本学3年生へ編入させる取組を開始することした。学生は機械システム工学科への編入となるが、その後、大学院情報工学専攻へ進学することで、製造DXに対応できる人材を育成する。	社会人学生：リカレント・リスキリングのためのIT技術セミナーについては、オンデマンド形式が有効と考えている。新規採用教員(R6採用)を含む情報系教員に、Pythonプログラミング、GPUプログラミング、DigitalTwin、CPS、MBD、IoT等に関する短時間のビデオを作成し放映してもらい、それらの学びを通して茨城大学大学院への社会人学生確保へつなげていく。

- ④ 他の大学(外国大学を含む)・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
宇都宮大学、群馬大学：北関東三大学連携データサイエンス教育プログラム分科会にて、データサイエンス教育のための共通デジタルコンテンツやオンデマンド授業実施方式の検討を行っている。今後、共通コンテンツを利用したデータサイエンス教育の全学への拡大と、オンデマンド技術の利用による新しいIT教育の促進を図る予定。 ハノイ自然科学大学・インドネシア・イスラム大学(U11)：ベトナム及びインドネシアの学生へのプログラミングセミナーのオンライン開催、情報系を含む学生の相互訪問交流。 茨城工業高等専門学校、福島工業高等専門学校：模擬授業およびプログラミングセミナーの対面+オンライン開催。	宇都宮大学、群馬大学：北関東三大学教育検討プラットフォーム委員会(北関東三大学DS教育PF分科会)にて、データサイエンス教育のための共通デジタルコンテンツやオンデマンド授業実施方式の検討を行った。引き続き共通コンテンツを利用したデータサイエンス教育の全学への拡大と、オンデマンド技術の利用による新しいIT教育の促進を図ることの検討を行うこととしている。 ハノイ自然科学大学・インドネシア・イスラム大学(U11)：ハノイ自然科学大学との短期間の学生交流を行い、ロボットを学ぶ学生3名が参加した。また、台湾の中原大学と新たに連携協定を締結し、学生交流を進めることになった。 茨城工業高等専門学校：茨城大学の教員による対面での模擬授業や特別授業を6/14,9/20及び11/15に実施した。R6年以降は福島工業高等専門学校へも展開することを検討する。	

大学名	英城大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

3-3. 学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,545	1,545																		
		入学者数	人	1,613	1,642																		
	その他の学期	入学定員	人	0	0																		
		入学者数	人	0																			
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,545	1,545	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	1,613	1,642	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.04	1.06	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	6,248	6,248																		
		編入学定員	人	34	34																		
		在籍者数(D)	人	6,751	6,735																		
編入学者数		人	27	24																			
収容定員充足率 (D/C)		倍	1.08	1.08																			

4. 外部資金の状況（全学）

年度			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
項目	単位																					
外部資金獲得額	千円		1,909,762																			

特記事項

1. 本事業対象となる情報系組織の状況「1-1. 博士課程」、2. 情報系組織の状況「2-1. 博士課程」及び3. 大学全体の状況「3-1. 博士課程」「3-2. 修士課程」におけるその他の学期入学定員は、若干名